

KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000
LICENCED PRODUCT

Kodak

LICENCED PRODUCT

Black

3/Color

White

Magenta

Red

Yellow

Green

Cyan



百十七番

61

大 宗 示

序

四

日

永 東

傾城冰ふ等へく打解」つて、
迷へる道の向と見だは借争の例、
ふとすりん。されば、候、
除ぐ如く。薄あと履ぐやしとうや。通
而彼よも。跡そむハ跡、
うづらひ。よ腰、
の植込



1963
61

情の付。殊よ花は郭もくべ。蓋。松よ
かきら。サ有れば。意氣也。みよびく御
あり。初令馴。傑の康。花は。彼款多、の
色。下紗解。一。ちむれ。四。勤乃
御花。人。化の蓮を。ふ。新造。花。角
あ。う。生。馬と。よ。遣。ま。が。都。鬼
百合。お。捨子の内。ある。屋。花。お

袖。せう。小て。ま。きぬ。男。一。と。招。き。人。同
フ。と。夕。顔。ハ。す。花。ぐん。の。難。よ。行。夕。小
肩。の。ほ。物。と。と。る。翁。正。切。モ。く。ふ
や。と。成。又。い。起。請。と。杜。若。今。度。い。指
げ。さ。う。し。る。し。花。の。薄。れ。色。變。す。竹。連
う。と。氣。の。蒲。櫻。或。ハ。い。一。或。可。也。
か。あ。い。顔。さ。と。正。月。さ。う。づ。の。勤。伏

行支近一歳三百六十日。血ありて有心ぞ
苦しくある。辛苦つま苦の苦れ世間。
四季の紋日のか車あつて。廻ぬ筆の
無理固辞謝。字は一つの小冊と著し。
題松登妓話と嘆べ。嗚呼小人
用居と爲作歌あらぬ。有所不至
と。諸君子聞よ。爰あす勿坐と云爾

文也の庚午成、不顧。稿よ草まと
挿す。一箇年の書を繕う。往く
多々難と妨げ。屢失手。不費と之
えよう。董雪の寃あらず不諒似匪
の極み。成り難りざれ。唯ふむと教
乃社取法向み。善くちづけ

不及第とす。又不至。主中教而
新造の事。言はざく。首尾ふ調
ふ。別作者の愚。えど。見ゆる。

鶯鶯詞主人



目録

○夫ハ施無畏
是ハ野夫醫

觀音の地内と見る放蕩家

附り極明くある旅宿の招子幕

○夫ハ耶鄭
是ハ懇膽

醒而悔あ仇愛ハ

者樓の世異をもる也男家

附り大至を勢くあるゆく津の狂言

松登妓話

久み鶴

勝勝齋著

所ハ大江戸の東北の靈地コテ。役五城のそれ
アリで周くちる浅茅観音。あら群集ハ
云もテ。亦訪主の本奥のまホクマニテ
夜み等ハ千日を度の痴のまカシマニテ
耳とモア。やゑ神風神た右よ岡ケバ。あん
はの拠点にござこづ。陰陽の仁王

はう立くれば久元の本四席とらへ
景ある。其山門のやうに一文甚子が世後り
とも。どうぞう座すらも不独之ゆるを。は
ねううおうおうおうえ氣て掉ぐ高
人ゆふ。ヒイ〜ドン〜風車。又在見えられ
る。初称ふと笑ふる極凍。翁く深井
のつづけ也。能も日光をうばひし。吾
天皇ハラボラアレ。日本一の繁華の街。ま
い

る人あり下向ひ。ちりゆふ才ア
■幸以廊トウヒハシテナス。あくまうびりくまざり
あつとうと高せだくみふせくぢよまく一かまんかけ
めのあた正ればのりうかとく二十軒。まや立ようううべ。さ
りうあとあるがちあ。先のり。トウヒハシテナス。あくま
うべ。まげてスクヘトあぐくキスあれども。ぐんきをう
まさかのあへ上上吉のやがく。トウヒハシテナス。あ
ゆうとえロ。トウヒハシテナス。■幸以廊トウヒハ
■幸だれども。こんう。トウヒハシテナス。まやま
つへちまかうでござくまきね■幸こくまうの

妙系よんがたはくももうかとこもねう
こうかうとこでこかのことをうけますと
ふちやをひまざね座シテのゆゑに固でシテイアヒ
きりでますとすトマコル座シテの十月万八の令
であつてすとトマコル間ミダラとお詫てうミダラ
きくらんの限界のまへく周ニ節がまそシお
ぐりのあつてぢくよめモモコロ座シテホンニ
くらのたんせいやふざやうづけの體シテ

うきのでもアニ丁町の一下もれで下タ方ハタカ
もうてこまか延素ヨイシよ柳橋リュウジョウくりうこうトやア
急ハヤシをまくとシテの方でエロアス立調リタツ竹チクよ底
すス小うコトコトあらーアラ小馬コトコトのあ
であよ鷹タカがこの毛トヅりうトヅお助アシのときには
ちやゆシタぬけめうヌケメウのぐグの毛トヅトナ色シタとくトクい
がくさシタさくシタあくシタでうシタどシタすシタあシタのうシタ
の正シタがあシタとおシタうシタらシタあシタやうシタのほ
うシタんシタきうシタ是シタはシタちシタとシタトシタまシタまシタおシタめシタ

一
の事は、さうちよのエおあえんぢづくかと
の事す、さうのカのあをひとをゆくまうい
らうえのやうざがおれも、あめ、よアナキ、んやう
てきよ坊うで、よ、ア首で、やう氣ご相^シうんな
る、お、ア、うと、山の、お、キ、うん、じつ付^シまし、ト、り、六、七
やうじ、せの、幸^キ
かとくう、ある種色男と、り、うりか、うるさり
う、うづこに、うれ、い、うぐ、ア、あ、うめ、う、うめ
う、うめううが、ううの、捕^ハ、おまさんと、うだ、あ、うえ

金をあさりておはね
智 + あさりあひなまうらあ
るやんううちでうりがすまうの院で風が
ソがすようあい金わせとキスのううち
ソアゲキトキタリのううんぢうも一さ
れうわめうぬがれと云うナシロのみ
そん身や筋まゆといづききわあれぐさと
スさんみや坊えとくよハナ屋さんみや坊え
あうぐく六とく身とくわうとくわうとく
トもうてから正月とくわうの正月とく

（前編）
（後編）

二丁目へりて時つ津樂がりてかまく
而よよくみてかの車カニと賀カニある夜の
かくもよくおまえがりかくよよくかぶとの
あたけドやアひるめへりてこをえ
のこれてもらかおニシテ田町の金罫
がふでもののうりそがあつしき車カニらと
唐カニソーラキカカとおてある内よあきこどもく
りうカニがおめん行カニだめたりとも初カニくらせ川

ちへカニがふカニあまうせ舌カニのひとみと
りよりんでかくくしてぬてもつまうめく車カニナ
まごあんドカニとせせんマカニくのうけの方カニも
ア西カニてまでサカニくあつてかのう十六むさし
ちやアあつめーねぐらめてもつまうめカニ
トガーカニエモウカニあんカニでそこあととまふあらてく
る富士カニで一カニのキあんだんごとくまう車カニと賀カニ
さんあくこうちも店カニとわくまう車カニと賀カニ

おあさんあさみがよ
ト御次うこくをえられちあひ人
事やとえ出比日そらう
印のあせりとくでこそせむものも珍る
す。幸 ちんかすよあづ拂ひゆんの
つをもやめがねちんが有やまき
はせんざのうれ袖けがゆつ
やんの附合でさる四つ手
ひよすやのうたんうまでを
こくられゆそくみくけてうすけまゆ

あつてめ(エナミ)はまよひ
なへどすみゆきよてがまをみとよじ
ゆくにゆくと
あかしきやがくゆふ
ほくちゅうかくわく(カク)
むきがゆく
じゆうかんざくらゆ
かくりてひくわくと
るこたのうたまでゆま
きうちもよ

トヨリノモグリの
カガシマツ
ヒメノモグリ
ヒメノモグリ

云々一卷で丁度のところ(上)アキラの
不貸合とアラルアトノバウタのための
ち山ガテナリ初の二ツレルアホー捨別な
事よりモアリで往々アキラモアリの三
人アキラモアリがナシトドクセビヤシ
アキラモアリハアキラモアリ

とやめて、いと、おまきゆる。の、おもてをかう。
トツカサセたゞくへとまつと、びとくがの、おとくのぞ
りええ、ラヤよく、ゆかよかなんじねさんあくす
づくえまつづく、イカくと、くく、おとづくまつづく
え、おぐくさく、く、おとづくまつづくまつづく
きうて、びと、とね、おさの、おとづくと、アスミルと。
なよ、おまえ、さん、が、あく、ゆきと、おとづくて、や
びと、つ、ス、で、くと、ひ、おとづくと、め、くわく、ゆきと

さ、座、西、白、一、
碧、一、おとづく、さん、が、く、て、や、う、と、お
り、て、ま、ぢ、ち、と、つ、ま、ん、で、一、ロ、お、づ、て、し、る、と、と、
う、き、く、れ、る、ね、と、
一、座、も、さ、る、が、く、れ、碧、ゆ
ま、つ、か、ぎ、だ、う、あ、う、く、か、う、て、き、く、と、う
て、く、び、ス、う、び、け、れ、み、申、か、く、く、一、
と、と、う、ど、く、ま、く、あ、く、う、け、が、く、れ、た、く、く、
か、く、び、
碧、ス、う、う、一、じ、か、一、か、う、う、有、リ、や
し、く、だ、ん、ゆ、か、あ、く、か、く、一、く、か、の、お、ち、か、う

でござります。■をも。ちきよ。とせん。おぐ
こ。そく。まき。ね。■。あく。先。トテ。上。ホラ
国。キ。山。ア。ハ。口。ハ。只。今。唐。密。で。町。ま。口。は。
こ。う。カ。ム。ア。マ。ア。リ。ア。ル。ア。モ。ア。ギ。ズ。ア。
ト。リ。よ。ホ。ト。リ。コ。ウ。安。心。ア。新。之。の。う。と
口。上。て。あ。ク。ア。リ。ア。ト。リ。ア。モ。ト。リ。オ
ヒ。ア。ル。の。か。シ。ム。ア。レ。出。モ。■。ハ。ア。ヌ。ア。キ
ハ。タ。タ。タ。付。モ。タ。タ。タ。タ。タ。タ。タ。タ。タ。タ。

其二

園の夜も城里たうる月が昇りといむ。むすゞの月一
夜の全盛されど暮のゆきの種の枯れしきふ
まゝそぞれとさへ。秋のゆきの常中の中月戸

とかぐであて行村は雪後。四季がわくの極樂
ま今とくがとき。今ぞ新元世の三番叟と家
くのあつて柔豊ぶりづれ。アラノアハビ。是
か。トウタラリと鼻毛を延長。又脛立ち。又
駄下駄。地也。日和下駄と。音。トウ。ミハ定
絶附の箱拵打。秋葉掌輪の光。トウ。近
いよき。る。毛あれ。送り。みづ。新造。あり。
あさひ。の仲の町。戸町。角町。と。新

とつめ。も。ゆ。も。假寐。倒。下構。た。の。方。下
座。あらう。の方。下。金。印。左。坐。形。も。と。き。う。と。正。一。左。坐
あらう。筋。左。坐。右。内。が。左。坐。や。も。と。う。き。う。筋。の。ま
あ。あ。三。人。二。え。へ。カ。ら。う。ん。り。ろ。て。ひ。う
お。ま。ま。ま。の。百。足。の。あ。り。ん。と。の。假。寐。す。こ
ま。し。と。こ。ま。せ。こ。ま。で。こ。ま。で。こ。ま。が。ま。つ。て。り。ひ。す。れ
の。あ。り。ん。と。ま。の。ま。く。え。こ。か。ト。こ。ま。名。あ。れ。ぐ。と。の。え
こ。ま。く。え。こ。ま。が。だ。い。も。そ。年。以。四。十。を。う。あ。く。も。た。ひ。す。で。り。う。く
う。口。ま。の。ひ。け。む。一。や。で。而。あ。ぬ。あ。る。り。の。こ。と。く。ひ。ま。く。ま。ち
ま。ま。く。と。り。あ。る。あ。み。ま。と。き。も。う。そ。も。す。れ。う。れ。そ。れ。え。じ。か。の。て。ひ。ま。ま。ま。の。う。め。が。お
づ。け。ま。れ。や。と。の。ん。ど。ま。の。ど。く。や。と。の。か。を。て。三。あ。ん。ト。ユ。キ
ト。お。う。ま。り。の。な。一。を。さ。た。の。え。ひ。ま。う。ち。よ。教。井。用。通
事。あ。伊。ハ。今。ユ。シ。ト。ク。お。ロ。グ。ま。う。る
お。ま。金。ま。き。リ。ユ。キ。と。と。と。と。と。

阿蘭陀

詠歌

五首

はまくらをひいておまかせにトヨウ
ゆのうやく時 ラツトびつや危の二モラムカニ
トキトキと出す 国 アカシトマキ
エホトマキ時 オカニヨルトム
ヤオシタガアホでモ私のつらでござり申す 芝
ズキタマスミスナト時 人情えづとあうて申す
とさるのナシ、あめと正もちが申ぞ仍もうと申す
也 芝 正モカセテ申す
モカセテ申す
時 あがきを繕ふ申す
まきとあがき申す

ちあくまと女房かわらへてござりますん
の子の身のゆけみとまうてりあふ
身や財産うへまくやどもすまうる
あやれもんじう後半

うなづくを **印** ハイトムヤウトカシテ
あきのトモトホイタニミテ
あきやアヒヅアリマシメ **印** ラ、トモクルノモル
アキテモ **印** アイトモリトモ

「氣づく事すは必ずやまの勅のことをぞ。トテ
モトトニ二つのことよきもの
いふどより、わが心もとござれてゆる。
辛子年
酒宿
五三
トテモトニ二つのことよきもの
のめざすれどりかみをさうへ出雲伯、あくまでのをうけ含ま
まへゆく代物をうそよぎくともへやもし
まの井と家と別荘の井をやせまゐらうと申す。
みよこ
あのむきて

まうとまうと
時ホイのゆく
里通アリ
アモシ

ゆ一里うちやつて舞いあればかのもの
ざ+十徳の山へウキスアホ田^アサた飛てござ
アホ^ア時^時くまう山ふもせ思ひうちや
上^アり下^アセキシマセんそ^ア酒^ア百萬の町と
ヤホモヒ^ア伊^アはるめ^アかわ井^アとほり出^ア
ま^ア一里^アたての園^アこよめ^ア面白^アがざつすを
艺^アアマ^アあ^アり^アな^アト^アト^アま^アる园^アやめ^アと^ア也^ア
きつまうれ^アうれ^アみのまにせ^アよ^アく^アく^アく^アく^ア

西あくわくよ田びとひの口ふ下をうごりうま
そけ下をう年ひあへうまにうめどよへく
ひはすううごんかも因とうけでこの口ふつと
めくされ五六十歳田だうもあうもくまと
ひあうが、さうして六十歳からうううううう
さうのうホー田きことうううううううううう
そ伊日那づふやアコトにせよへくとゆ
く行けりすよとさの下をうあうなう
で

やうすいおが二三日ゐるともぐまれてうり
まくへきの後どくうけでもとくへあんだ
されまたうかがえきうてをもくへをやうて
やうかとくへとこありへんじううううう
でごうくまくはやうとく事うの田じううう
しやう田きのうううううう田キセ、田そ
うぞうもうううううううううううううう
スるううううはうううううううううううう

ひがつあすかたうちの [キ] こんどのと
りアあつもあくへトスヤカシくじらうとまくらやう
ふとくらあともと [キ] 白の草紙
むすきをかきま [キ] うそよくいわびのわんみ

ちうとあざみのうじりをめアトあらうへ
ちうとあざみのうじりをめアトあらうへ
よの店出あらうす [サ] おもむきあらすよ店出か
【智伯】

アーチうちのせ [キ] ホンニ立今へ

アイカベーあらうへトモ [キ] 上やうトモ
ミよがくさんあまきどんよ者なきてよあへ [キ]

角波波イカフは [キ] カチがてまちやセーヴセラ

くかくかわせばすアジガスイキのむと [キ] ナニモジム

アトアアムメ [キ] イエヒルヘルヒルヒル

ナムヒルヒルヒルヒルヒルヒルヒルヒルヒル

ヒルヒルヒルヒルヒルヒルヒルヒルヒルヒル

ヒルヒルヒルヒルヒルヒルヒルヒルヒルヒル

あもくわづかアヤウキ [キ] さんかくあづか

【智伯】

内うちのを曾伯もまたの井が空くにあはれの井もまことにあつてありの町
りのかへば曾伯がるひゆまきもあくやう一のまみれあれどもすまか
うれびまくらこよ一のアラもあく幸二ヶ奉さくううラ一の間さんくん
ゆれどもゆうひそくあくせくめくに兩三とくほど程あくこよざくとりれ
ううそみう一の口え出てりけじるもむんまき全うぶくづくとえくう
ま二六によきくとつれて小ほみかおふくまきをも下はよりくじみよ
きくとあまくとんとくまきをがこす一みのまきどあくとくちよく
えれべりうきあらうふむうてこす一のがこうりとくあまきとく
ともあくよしきとくまの上只がくぞとモウも休かくこく
こくゆくとくまのあくて屏風の外 ウも休かくこく
うくとくまきとくらのやうへ看護院
穴待のたてとくらのユクとまくいわ里て内もくらま
づくと一てゆくとくらふくちふくゆの四之をまくとくら
幸二ヶ奉さくうおもくとくらてガードとまく
さんあくの看護院とくらいわ里て内もくらま

下をまでもよきうへりとよらへあえ
ちへやうへのうとヤイトシトシトシ
ゆうふあくイセん■そくやアヒトナキ一す
も形^ハうめりはあれでつゝくへとふへ三金前のひあかひ金前をと
きい事^ハとものまで金前とのつり金と通つてよことまくあの代さうり
ちてまきつたりと金男のせうひみへばくわざとまくもあくまくとこくぢり
コトハシナリよううがく者とりと男とくのハすかへと
ねづ^ハ金前をものとまくとくよかうを^ハ■おのとんかく

今此ノモウチヤ、テシナハ一
■

七
也

國の

+ ニリ

ヒツ

ア

ミ

ア

ミ

ア

ミ

ア

ミ

ア

金のあつあとがちやああきゆトシマヤお
食のこゑいわものゆりやあせんかみ
で氣成のせどとねみくらつてえ、かんまん
一トニあひやつらをやあおおづくら
でゆあくくくくうぐる葉アニモのくーさん
こくらのほてうんようがはすをあうえあくーとやう
氣の方をやよびかくらむとあひそらふく

りひかきそく、まううの方こくくとよめさん
さくさくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
國あるおがーの口あああああああああああ
ーーあれもこくちが方くまきがくわせても
ゆくゆくのまくちが面白くゆくとぞひよす
ゆのゆの

うきやうへとよもよかくもせんのゆ
おどりはまくや名代の新造トモ
えきえがくんえ座むせとくわのゆ
多くれにそく也あくんのトモゆ
とくのまくらりくゆきえあくん
さんとあくんのゆくゆくちづ立
ちやアたちアあくでうトモがまぐや
耳アまくらのぞちトモくわ

卷之三

卷之二

おまえのうじよかくの根あがモハツモの
トシホリあんび^{アシ}キ^{アシ}時^{アシ}かのうじゆも^{アシ}待^{アシ}ち^{アシ}
ごくうしゆてをかう^{アシ}キ^{アシ}いとけりあづ^{アシ}ク
碧^{アシ}ニ^{アシ}まづ^{アシ}ごよみ^{アシ}す

ちゆすごとくのう

ちゆうすうじゆる
せんかくちゆう國事
とおうて下ちん度ひよりの事友とやうそ
ト二人あくまでも
おみはふすく
置きとておもひのからう
うめぐらす人々あまくとくらう
庫

トヒゲ
里通

里通

わざわざトシナ
あで **里通**
のよきのびとあらえんやくべかくトの
のよきとせうけたくトのよの
あやつまトれりの男アツメのよの
とくやうのよのよもすこりゆかトのよ
トトあけてるく出マテよ
くるとつねのくさんよてカ
かわづくよめみカくよくカく
うの幸ラいにとく波ハ
里リのれよくとむりのうをうやうくカ

のうへやトナーハラれてごめんをとあや
まつやのうへやトナーハラれてごめんをとあや
るややく里のよしにあらうとひきやあや
よるよもじりまづいたとくわざんのめ
きふな吾きの九所のさくすくやゆが下り
せすやせよううてねくちよめとめや
ぐらやユレゆきくへきちでよし戸めくらをあんま
をあらやリよ里のけいこもやくか小坊をあ

まくわざとせのうあやケラとひがらやも
すがもうまがうぞうとう里無駄百事まことうへふ
ひきゆきもむらうが、ぬまきうと下うね、まさんうのナ上うきうと
りふくとア色ハヤウキムクルの井
ちもどよしもがたうかてもの。 **里**無駄百事まことうへふ
あたごう **里**無駄百事まことうへふ
るがめんせきなうあづくまくひせんう
アセホのせ、虎のせ、エゲホ、カホ、モトホ
ハシモトホシで、アセホ、モトホシ、カホ、モトホ

あつれせでござります^四 おれゆけもぬくま
りよアーマー^一 ひかわばのアシテのがやま^二
ざまがやア^三 おののやまの山の^四 ゆでをとた
かくらめ^五 だらまととくさうやのづきをとか
食^六 ヨレキ身おのやろくとリヤシ^七 とまえあわがの
でニおれゆ^八 四^九 さたなはる男の男^十
トキキ^{十一} あやまくかきをめぐ^{十二} 里^{十三}
又^{十四} おとくらじにせんぞくするよ^{十五} トアモ^{十六}

おやあちせんア^一 よくつり^二 くとく^三 う
てとく^四 てく^五 かわん^六 とのと^七 きく^八
のふを^九 うけ^十 あくと^{十一} くま^{十二} のやの
うや^{十三} ふとく^{十四} なすも^{十五} おがつ^{十六} たの^{十七}
もうち^{十八} あらん^{十九} 里^{二十} おや^{二十一} おれ
お^{二十二} おれ^{二十三} おのの^{二十四} おのの^{二十五} おのの
お^{二十六} おのの^{二十七} おのの^{二十八} おのの^{二十九} おのの

おもやくさる
なれやのあひをまほら
どきりとせんてんざわら
ゆきかたはくさんへゆくうんのこうが松の内
えはれつるまでかく日折日のちくはりもん
をまあのそくせんぐ(ヤンセイ)えびざ
ののすかにん風ふうあらとま中ひ草み
ゆふりんもくすくさくめり
のよし、こゑや祭まぞえ、まゐのうじゆのむ

うんを里をうるのあうがぎやれいまうアリ
アリキタシタんをかむきうるもあきくがやんば
タラとあそくあそびうるもあきくのうく
きそりうるもあきくのモハ
袋のたこやめがちやアこの牆の、
ふよこつとうめが方へてうとひつと二えとふ
くらゆのせ三とくとてあそぬでよこり出
ちやうさんかくくわくをうよづらがく

まじめにトモの井の水をもせてひだりで、一ノ谷みよきく
まのうんがてとくべらもとおもむね、里通づ
今時ふうやうの事のいせきで、いざながてとく
ね^キとうてのたのゆゑへもた平とくすくやア
うさがくを出でてゆかせ、シテシテシテシテシテシテシテ
のりの門へ出でてゆかせ、シテシテシテシテシテシテシテ
ジトガ一^キもくさんとまつり、ハラハラ秋よのハ
じき^ハ^カうわくとくまく、ハラハラ秋よのハ
でもうなまきとひひかのんきのうさか、私のう

てもうじごうじあひのしも、やあくへばづて
えも、もんまと^キ、^キかよひてもあんあんあん、^キ
めちやア四^{サチ}のめ^ミちうとよくせの^キアま
じのうて、もとへいのゆきもとくわーと
うる音人^{ヒト}とひひかかへてよよかがひひかか
ものとてけり^{ケリ}、かのわがまくらじもむか
ぢとゆでひひかへてほまついたんまついたん
ちよ^キ、^キうの^キうれしきうれしき

うそをぬくらすかにせんせん國をもや
せりことてくらむるゝがくゝ男のうりこも
まくはれがくじきよめいじくらむるゝお
そんあくましお奉つかくぐのうそかなんを
ね圍ふくらむるゝがくくらむるゝをりよんで
おひづるがくじきよめいじくらむるゝお
あかやくのくわの素うんよさかくどくあ
一ふとくうりくなくトつひきくとまくナニ
まきまくのうくまきまく

あんじてアもせんちうともうぢりへやうておも
がくくわいせんのゆくらむるゝぞくくわい
一レサモリカクトキの圍ふくらむるゝが
つほうわまかアカクセキアケモアア
ウゲアねふくらむるゝれきくらむるゝがく
うやかくもまくアカクセキの國うれえよん
うかく

どが三二年、それでひどめててりとせうおつうこを「もし」とさう
いふと紙づんでせうがまのつとてゆくはめうづりもよくあまく
のやうかうちよむたるう
やうくわくうだつても **春** サア是ううきのせんでも、あじト
セモヤんの川 **サ** トめううんでうでせうくるとみううの、
ううかうきとま **サ** ナアセニがもるのゆう(まう)とち付えりちう
一うめで、さんくようううのゆうのゆう(まう)とち付えりちう
づれりけゆくゆの内つまきあつうする時ハ、いまううえコハきうとまうう
う有ううにあらううればはア吉とくよ書物多居え篇ゆもまたううより
あんゆくせよ、うせうのせあんすうてとりよすをえゆくうどもその名をうり
うてまきてのゆうむ令くしてとくよくうりうりうんうに
ゆう向らもあきうどもくやうくともううおりう **春** サアトうう
さうるゆんのゆうをくまがふれ **サ** トスニもとひ
ううのテナリ、この寛とつきをまもあ

やうせうれちもすもやつちうとこづかんときん
きんせいかやま船後國世後國あくらうあく
うえどもかとほふと一きふうせうきまひく
おと圍國をやかづかづの近國をもづれどもゆ
うをやかづかづのうがわくともれうぐくよかつて
ゆるうくじとくう本まへかんもせよどりだ
あうされすでさかまやすくくわきがくつてゆ
つとももかづかづもあうづくもせよどりだ

高

あくまうスカとんかんとうあんよせよざく

さとまうまうまうまう

作者

ちうとんかんよせよざく

○天ヒの比翼ヒツキ地チの運理ウニギとああニヒツもつ云ヒツ
えぞうあるき者ハタハタまうちこおもむけ
鳥トリノヘヘなけをみおおどヒツとヒツおも
二階ヒツの徳富トロトトれで多ヒツた西風ヒツの下
とれきはとよきめの木ヒツの木ヒツの木ヒツとヒツおも
色富ヒツのひぐるものヒツの幾日ヒツとまヒツかあヒツねこの

紙やアードのア [カニシ] バイシヤアでござりま
キトキ [カニシ] 与テアタカハツのサケルトモアーテア
ト [カニシ] ハイモウホモトヨタリテ出アムツナシト
ア [カニシ] 喜眠暁 [カニシ] とモモジルノシモトヘ
ア [カニシ] マア一ホアウクアト [カニシ] アトラムカムオバ
モコル [カニシ] ノマアト [カニシ] ノトモサヘ
ア [カニシ] 連解毒湯 [カニシ] トモシムキツウリ [カニシ] カのタマヒト
ア [カニシ] 園 [カニシ] まのうわくさんあく、おゆつーなトモア
ラク [カニシ] くそをせかうさんあく、おゆつーなトモア
ヤチヤアモウ [カニシ] 玄 [カニシ] 院 [カニシ] ノモト
ア [カニシ] ノモト

もえかへ、ニツリテモレモキモアモト [カニシ] サア [カニシ]
ヤカ [カニシ] ナムシキセキ [カニシ] ノトモトカ [カニシ]
奴 [カニシ] 案 [カニシ] もめたりとセア [カニシ] フスル [カニシ] ノミシ
ア [カニシ] とモトモアリ [カニシ] モモトモジモアス [カニシ] ドモア
カ [カニシ] ムモモアリ [カニシ] ハ [カニシ] ハモトモアス [カニシ] ドモア
トモア [カニシ] カ [カニシ] ハモトモアス [カニシ] ドモアス [カニシ] ドモア
シ [カニシ] カ [カニシ] ハモトモアス [カニシ] ドモアス [カニシ] ドモア
ミ [カニシ] ミモトモアリ [カニシ] ハ [カニシ] ハモトモアス [カニシ] ドモア
狗 [カニシ] 豚 [カニシ] カラリ [カニシ] ハ [カニシ] ハモトモアス [カニシ] ドモア

ま至通はうづくの山あは狭きへりさあ
か被引ひだるやかひびつらがうのあは送れ
てやうすあせ復あわへあす。上圓て大門よ
人キル教の創造あらされうきとこふやふ
まみけゆびうらやのくんじとくさうとまよ
さて腰くとおきだきう 晋 ナン オの里通づ
らうづくとあひておきだきうのくみを
男かかふとおてのかはうづくの口とや

とくにうみがつせおはふととおのからうが
え方石のキハク召よしておととよ一文がうて
あまつて八百八所をとくにけかとくとくとくし
ておきくよくよくのうづく 里通 いとおとと
のうづくとくのうづくのうづくとくとくとくとく
はておきくよくのうづくとくとくとくとくとくとく
るるうづくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

近里通とまじゆくあれも同くぬき合たがひあつ
ざとゆとつよひゆきよるともよもよやうす
りもとうじゆきをたまの陸へカクレヒト船下船
車切御くわきみのあめりはくまもあ要方代えんざい
まちの
うくひかくおゆ
の声でさうひうたうれすうご

松登技祐畢

久野空也八
貨本

久野空也八

